

女川原子力発電所2号機における安全対策工事完了時期の見直しについて ～工事完了時期は2024年2月へ見直し、再稼働時期は2024年5月頃を想定～

女川原子力発電所2号機の安全対策工事完了については2023年11月を目指してまいりましたが、当初の計画から追加で実施することとした「電線管の火災防護対策工事」の工程について、安全確保を前提に改めて精査した結果、2024年2月を目指すこととしました。また、発電を開始する再稼働の時期については2024年5月頃を想定しております。当発電所としましては、さらなる安全レベルの向上に努めるとともに、地域の皆さまからのご理解をいただきながら、再稼働を目指してまいります。

安全対策工事完了時期見直しの要因となった「電線管の火災防護対策工事」の概要

女川2号機の「火災防護対策」は、新規制基準への適合性審査を経て、原子力規制委員会から許認可いただいた内容に基づき順次進めてきております。そうした中、他電力の原子力発電所において同委員会から「電線管の火災防護対策」に関する指摘があり、昨年10月に女川2号機においても水平展開の必要性を確認。同年12月に工事の実施を決定し、順次進めているものです。

工事の内容

- 発電所内で万一火災が発生した場合に、発生箇所と同一区画に敷設している安全上重要な設備の電線が損傷しないよう電線管の周囲を耐火材で覆います(42カ所)。
- また、この工事により重量が増加することから、必要に応じて、サポート部材を追加するなどの耐震補強を行います(約150カ所)。



難燃性の電線を金属素材の電線管で覆っている



電線管の周囲を断熱材や吸熱材などの耐火材で覆う

安全対策工事完了時期の見直しに伴う再稼働時期の変更について

- 女川2号機においては、安全対策工事の内容が工事計画認可のとおり実施されていることを確認する「使用前事業者検査」を適宜実施しています。
- 今回の工事完了時期の見直しに伴い「使用前事業者検査」ならびに、その検査が適切に行われていることを原子力規制委員会が適宜確認する「使用前確認」の時期も変更となります。
- 再稼働の時期は、上記の進捗状況を踏まえ改めて見極める必要がありますが、他社の事例や当社における過去の実績などを踏まえ2024年5月頃を想定しています。

《従 来》

《変更後》

- 工事完了時期：2023年11月 → 2024年2月
- 再稼働時期：2024年2月頃 → 2024年5月頃

女川原子力発電所の安全性向上の取り組みについて、動画で紹介していますので、ぜひ、ご覧ください。



《第31回東北電力杯ソフトボール大会が開催されました》

9月3日、女川町内のグラウンドにおいて、第31回東北電力杯ソフトボール大会(主催:女川町ソフトボール協会、協賛:東北電力(株)女川原子力発電所)が開催されました。

当日は、当発電所員で構成した「トンネルズ」をはじめ、計16チームが参加。トーナメント方式により東北電力杯をかけた熱戦が繰り広げられました。決勝では「アベ住建」と「オヤンズ」の対戦となり、2対0で「アベ住建」が勝利。第26回大会以来、5回目の優勝となりました。

大会結果 **優勝** アベ住建 **準優勝** オヤンズ **第3位** ・ソフトボーイズ
・セーフティファースト



白熱した試合が繰り広げられた

《交通安全活動を実施しました》

9月21日、秋の交通安全運動(9月21日~30日)にあわせ、発電所員および協力企業従業員18名が安全運転意識の向上を目的とした活動を行いました。

当日は、飯子浜および小積浜地区において、交通安全メッセージが書かれたのぼり旗を掲げ、往来する車両に安全運転を呼びかけました。



安全運転を呼びかける発電所員と協力企業従業員

《石原良純氏トークイベントを開催しました》

9月10日、当社は、女川町生涯学習センターにおいて、俳優で気象予報士の石原良純氏による、近年の異常気象をテーマとしたトークイベントを開催し、322名の方にご来場いただきました。また、当日は「女川原子力発電所バーチャルリアリティ(VR)見学会」も開催し、67名の方に女川原子力発電所2号機の安全対策をご覧いただきました。



石原良純氏による講演

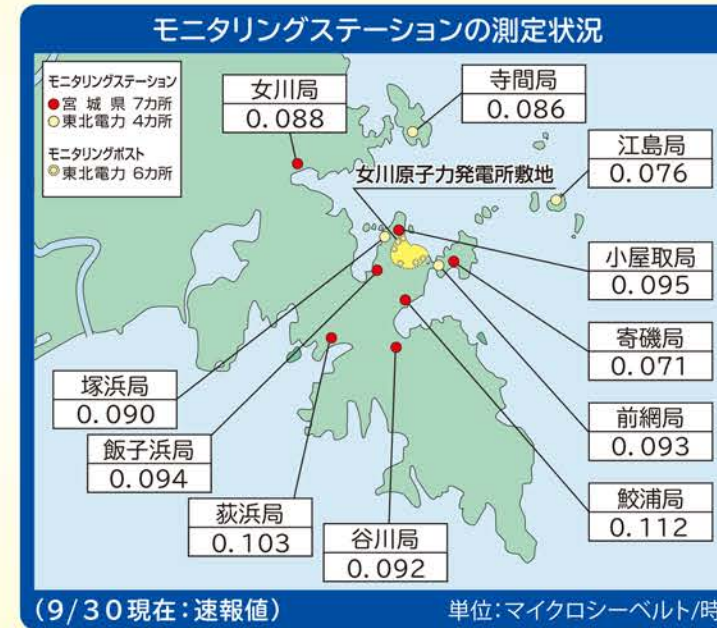


VRゴーグルを装着した女川原子力発電所見学会

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2023年9月30日の測定値は、最大で0.054マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	最小値	最大値
2011年3月11日	0.027	0.064
〈地震発生後最大値〉		
2011年3月13日	1.8	21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉		
2012年4月1日	0.063	0.098
2013年4月1日	0.055	0.076
2022年4月1日	0.033	0.045
2023年4月1日	0.034	0.046
2023年9月1日	0.033	0.046
2023年9月30日	0.034	0.054

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。再生紙を利用しています

